

(2) 「単元で学ぶ」授業改善 実践事例

ア 実践事例 1 第4学年 「筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう」

(教材 「アップとルーズで伝える」 中谷日出著 光村図書 4年下)

(副教材 「くらしをまもる車」 学校図書 1年下)

○実践校における課題の焦点化

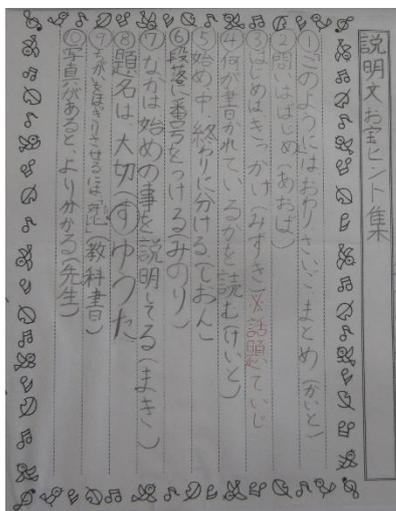
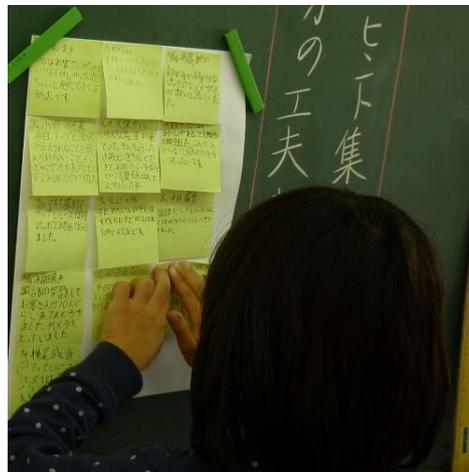
「中心となる語や段落相互の関係を捉えること」

○課題の解決に向けて必要な力

「説明的な文章の解釈に関して、段落相互の関係を捉えながら読む力」

○課題の解決に向けた具体的な手立て

- [手立て1] 低学年の説明的な文章を副教材として用いて、学び方を確認させる。
- [手立て2] 学習を通して得た新たな知識を「説明文お宝ヒント集」にまとめさせ、活用を図る。
- [手立て3] 単元を貫く言語活動として、ガイドブックづくりを位置付け、主体的な活動を促す。
- [手立て4] 児童が考えを広めたり深めたりする場として、一人学びとグループワークを設定する。
- [手立て5] 振り返りで、キーワードを使って「学習して分かったこと」をまとめさせ、「自分ができるようになったこと」を書かせることで、自分の学びを自覚させる。



第4学年 実践事例(1時目)

1 単元名 筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう

教材「アップとルーズで伝える」(光村図書 4年下)

副教材「くらしをまもる車」(学校図書 1年下)

2 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、前単元「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」(光村図書4年上)で、段落相互の関係を考えながら読んだり、事実・説明・筆者の考えの関係をとらえたりする学習を行ってきた。段落ごとに何が書かれているか、筆者が伝えたかったことは何かについて個人、グループ、全体で考える活動を行ったが、内容を十分に理解できている児童は少なかった。

4月に行われた5・6年生の学習状況調査等における本校の結果を解答分析した結果、記述式の活用問題では、以下のような誤答傾向が見られた。

6年	B2三	
出題の趣旨	文章と図を関係付けて、自分の考えを書く	
正答 (52.3%)	誤答 (46.6%)	無回答 (1.1%)

(誤答の内訳)

- ・条件①②を満たしているが、③を満たしていない。(2.3%)
- ・条件②③を満たしているが、①を満たしていない。(2.3%)
- ・条件①③を満たしているが、②を満たしていない。(27.3%)
- ・条件①を満たしているが、②③を満たしていない。(4.5%)
- ・条件①②③ともに満たしていない。(10.2%)

記述式の問題では、提示されている条件を十分に満たしていなかったり、条件を無視したりして文を書いている児童が多いことが分かる。これは、5年生でも同様な誤答が多く見られた。

また、5年生の説明的な文章の問題では、下記のような結果であった。

5年	4 説明的な文章	
出題の趣旨	中心となる語を捉える	
正答 (67.3%)	誤答 (31.7%)	無回答 (1%)
出題の趣旨	中心に書かれている事実を捉える	
正答 (53.8%)	誤答 (45.2%)	無回答 (1%)
出題の趣旨	段落相互の関係を捉える	
正答 (61.5%)	誤答 (35.6%)	無回答 (2.9%)

説明的な文章において、中心となる語を見付けることができていなかったり、段落相互の関係を捉えることができていなかったりしている。

本学級の児童の実態と本校5・6年生の実態を踏まえると、4年生の段階から文章の読み取り方を身に付けさせること、条件に合わせて文章を書かせることを、手立てを工夫しながら指導を行っていく必要がある。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年における「C読むこと」の指導事項(イ)「目的

に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」をねらいとして設定している。

本教材では、映像や新聞の写真で用いられるアップとルーズの2つの方法について、それぞれの特徴を述べ、送り手が伝えたいこと、受け手が知りたいことを考えながらアップとルーズを使い分けることの大切さを述べている。本教材は、アップとルーズを対比的に述べており、段落相互の関係をつかませやすい教材である。また、文章だけでなく、写真を用いて対比関係を分かりやすくしており、児童はアップとルーズの対比関係を写真でも容易に理解することができると思う。

さらに、単元導入時に扱う教材文「くらしをまもる車」では、はたらく車が人々の生活を守っていることが述べられている。この教材文は、文章が短く、説明的な文章の基本的な構成が分かりやすく、まとまりごとに書かれている内容を把握や、段落相互の関係をつかみやすい。

そのため、単元導入時にこの教材文で説明的な文章の基本的事項を確認させ、「アップとルーズで伝える」で生かすことができると思う。

(3) 指導観

単元導入時には、これまでの説明的な文章の教材文を用いた学習を想起させる。1年生の説明的な文章「くらしをまもる車」を用いて、説明的な文章を読み取るために必要な内容(問いの文、はじめ・なか・おわりなど)を確認する活動を行う。確認した内容を説明的な文章を読み取るヒント集にまとめていき、今後、説明的な文章を読んだり書いたりする時の参考資料となるものとしていく。合わせて、文章構成や、段落相互の関係、筆者の工夫を見つけていき、ガイドブックにまとめていくことを伝える。ここで、課題意識をもたせ、学習への意欲へとつなげていく。次に、段落相互の関係をつかませるために、「くらしをまもる車」の段落相互の関係を考えさせる。その際、段落相互の関係をつかませるために、段落の初めの言葉に着目させる。接続詞や主語などから、前後の段落とつながりがあるのかないのかを考えさせることで、段落相互の関係がつかみやすくなることに気付かせたい。

そして、「くらしをまもる車」を読み取る際に作成したヒント集をもとに、「アップとルーズで伝える」を読み取る学習を行う。まず、ヒント集の内容が「アップとルーズで伝える」の説明的な文章でも使うことができるのかを検討させる。『『このように』が始まる段落からおわりになる。』など、ヒント集に当てはまらない内容があることに気付かせ、新たな読み取り方を知っていく。ヒント集に当てはまらない内容については、詳しく読み取りを行い、新たな読み取り方なのか、読み取りに誤りがあるのかを確認する。さらに、新たな読み取りの内容として付け加えることができるものは、ヒント集に付け加えていく。「アップとルーズで伝える」における筆者の工夫である、対比を用いていることと、写真を効果的に活用していることもつかませる。そのために、まず、アップとルーズについて書かれた段落を線で囲んで、2つの関係について考えさせる。次に、写真と文章との関係もおさえる。写真がどの段落、どの文章に当てはまるかを確認させ、写真と文章を合わせて見ることで、より説得力が増すことに気付かせたい。

最後に、筆者の工夫を文章にまとめる活動を行う。その際、まとめる際に必要な言葉を児童から出させるようにする。また、ある程度の字数でまとめることができるように、ガイドブックに貼ることができる大きさの原稿用紙を準備しておく。

ここで学習した文章構成や段落相互の関係は、次単元の『『クラブ活動リーフレット』を作ろう』で、説明的な文章を書く際に生かされるようにしたい。

3 単元の目標

- ◎それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。
- 写真と対応した部分に注意して読み、アップとルーズそれぞれの特徴を整理することができる。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・学習課題に関心を持ち、文章を読んで考えようとしている。	・それぞれの段落の役割を、本文の内容から理解している。 ・写真と文章の対応関係を理解している。	・指示語や接続語が、文や段落の関係を示す手掛かりになることを理解している。 ・新出漢字、重要語句の読み方や意味を理解する。

5 指導と評価の計画(全8時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準【】と 評価方法()
一	1	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>・「くらしをまもる車」の文章を並べ替えて、これまでの説明的な文章の学習を想起する。</p> <p>・学習課題をつかむ。</p> <p>・ガイドブックについて知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう。</p> </div>	<p>・バラバラになった文章を並べ替え、説明的な文章を完成させる。</p> <p>・並べ替える活動を通して、読み取りに必要な用語や観点を出させ、【説明文お宝ヒント集】にまとめていく。その際、観点を出した児童名も書き込み、児童が自分たちで作成するという意識をもたせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【説明文お宝ヒント集】</p> <p>・形式段落に番号をつける。</p> <p>・キーワードに線を引く(題名に関する言葉・くり返し使われている言葉)。</p> <p>・問いの文を見つける。</p> <p>・「はじめ」は、問いの文のある段落まで。</p> <p>・「このように～」で始まる段落から「おわり」。</p> </div> <p>・本単元では、これまでの説明的な文章の読み取り方を使って読むことと、新たな読み取り方や筆者の工夫を見付けていくことを伝える。</p> <p>・説明的な文章の読み取り方や、筆者の工夫をガイドブックにまとめ、今後の説明的な文章の学習でも活用していくことを伝え、意欲や見通しをもてるようにする。</p>	<p>【関・意・態】</p> <p>・学習の見通しをもっている。 (発表・ワークシート)</p>
二	2	<p>○学習計画を立てる。</p> <p>○「くらしをまもる車」の段落相互の関係をつかみ、ガイドブックにまとめる。</p>	<p>・学習の流れを確認し、見通しを持たせる。</p> <p>・【説明的文章すらすら読むヒント】をもとに、文章構成図を作成させる。また、書かれている内容や、筆者の主張、この説明的な文章での工夫をガイドブックにまとめさせていく。</p> <p>・段落相互の関係をつかませる学習では、グループ学びを行い、互いに教え合いながら、読み取りを深めさせていく。</p> <p>・「くらしをまもる車」の「なか」の例示は、3つの車が並べられていることを確認する。</p>	<p>【読】</p> <p>・「くらしをまもる車」に書かれていることを読み取りガイドブックにまとめることができる。 (ワークシート・発言)</p>

3	○【説明文お宝ヒント集】を使って、「アップとルーズで伝える」を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・【説明文お宝ヒント集】のヒントが使えるかどうかを一人学びで考えさせる。次に、グループや全体で検討し、当てはまらないものについて、新しいヒントを考えたり、予想を立てさせたりする。 ・新しいヒントや予想が本当に当てはまるのかを次時から詳しく読み取っていくことを伝える。 	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アップとルーズで伝える」を【説明文お宝ヒント集】を使って読み取ろうとしている。(発表・ワークシート)
4	○「アップとルーズで伝える」の全体の文章構成をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・段落はじめの言葉にサイドラインを引かせ、前後の段落との関係を考える手掛かりとさせる。 ・前時の学習をもとに、構成図にまとめさせる。「はじめ・なか・おわり」の分け方については、意見が分かると予想されるので、ここでは、おおまかな分け方にとどめておく。 ・書かれていることをつかませるために、キーワードや問いの文にサイドラインを引かせる。 ・キーワードや内容から各段落に書かれていることを小見出しにまとめる。 	<p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおまかな全体の構成をつかむことができる。(発表・ワークシート)
5	○④⑤段落の関係を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・アップとルーズについて書かれている言葉や文にそれぞれ色を分けて線を引かせる。 ・伝えられることと伝えられないことについて述べてられている言葉を表に表し、それぞれが対になっていることに気付かせる。 	<p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対比関係をつかむことができている。(発表・ワークシート)
6	○⑦⑧段落の役割について考える。 ・⑥段落でまとめているから、⑦⑧段落は必要ないのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑥段落までの文章を提示し、⑦⑧段落が必要ないのではないかと投げかける。 ・⑦⑧段落が必要か必要でないか、その根拠について、ループや全体で話し合わせる。 ・⑥と⑧段落を比較し、書かれている内容から、文章全体をまとめているのは、⑧段落であることを確認する。 	<p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係をつかむことができている。(発表・ワークシート)
7 8	○「アップとルーズで伝える」で筆者が最も伝えたかったことを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・アップで伝えたかったこと、ルーズで伝えたかったことをそれぞれまとめさせる。2つの伝えたかったことから、筆者が最も伝えたいことが述べられている文を見付けさせる。 ・最後の段落に述べられている文章に込められた筆者の思いを考えさせる。 	<p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張をとらえることができる。(発表・ワークシート)

	<p>○筆者の工夫をガイドブックにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップとルーズ ・筆者（中谷さん） ・対比 ・写真 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が自分の主張を伝えるために、どのような工夫をしていたのかを文にまとめさせる。 ・まとめを書く際に、用いるべき言葉を児童から出させるように促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の中谷さんは、対比を使ってアップとルーズのちがいははっきりさせていた。 ・筆者の中谷さんは、対比をくり返して使い、アップとルーズのちがいははっきりさせていた。 ・筆者の中谷さんは、写真も使って説明することで、読む人にアップとルーズのそれぞれのよさを伝えなかった。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・書いた文を互いに読み合い、筆者の工夫が分かりやすくまとめられているかを確認する。 	<p>【読・書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の工夫をつかみ、文章に書くことができている。 <p>（発表・ワークシート）</p>	
三	9	<p>○学習を振り返り、まとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体を振り返り、説明的な文章を読み取る時に必要なことをまとめたり、自分の力で文章を読み取ることができるようになったかを自己評価したりする。 	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り自分が身に付けた力に気付いている。 <p>（発表・ワークシート）</p>

1 本時の目標

学習の見通しをもつことができる。

2 本時の展開(全9時間 本時1/9)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
<p>1 提示されたカードから本時のめあてを考える。</p>	<p>○「くらしをまもる車」の教材文を1段落ごとに分けた8枚のカードを、ばらばらに並べて提示する。</p> <p>○カードを並べ替え、元の教材文にする活動を通して、これまでの説明的な文章の学習を振り返ることを伝える。</p>
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>《めあて》 説明的な文章で学習してきたことを思い出そう。</p> </div>	
<p>2 「くらしをまもる車」を正しい段落に並べ替え、話合う活動を行い、【説明文お宝ヒント集】にまとめる。</p>	<p>○2人組でカードを並べ替える活動を行わせ、順番とその根拠について考えさせる。</p> <p>○クラス全体で順番やその根拠について話合う活動を通して、読み取りに必要な用語や観点に気付かせる。</p> <p>○児童の発言をもとに分類整理して、【説明文お宝ヒント集】にまとめる。その際、観点を出した児童名も書き込むことで、自分</p>

3 本時の評価

評価規準	学習の見通しをもつことができる。【関心・意欲・態度】		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	説明的な文章の構成を振り返りながら、意欲的に教材文の並べ替えをしている。	友達と話し合いをしながら意欲的に教材文の並べ替えをしている。	並べ替えをしない。 →友達の考えを参考に並べ替える。
評価の方法	発言・ワークシート・振り返り・行動観察		

【学習計画表】

六	五	四	三	二	一	学習計画	筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう。
○学習をふりかえる。 (できるようになったこと・ついた力)	○「アップとルーズで伝える」で筆者が一番伝えたかったことを考える。 ○「アップとルーズで伝える」での筆者の工夫をガイドブックにまとめる。						
/	/ /	/ / /	/	/	/		

第4学年 実践事例(2時目)

1 本時の目標

「くらしをまもる車」に書かれていることを読み取り、ガイドブックにまとめることができる。
〔読む〕

2 本時の展開(全9時間 本時2/9)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 前時の学習を振り返	○前時に作成した【説明文お宝ヒント集】を提示し、これをもと

り、本時のめあてを知る。	に「くらしをまもる車」の構成や筆者の工夫を読み取ることを伝える。
《めあて》 【説明文お宝ヒント集】を使って、「くらしをまもる車」を読み取ろう。	
2 学習計画を立てる。	○学習計画を提示し、今後の見通しをもたせる。
3 「くらしをまもる車」を読み取り、ガイドブックにまとめる。	○【説明文お宝ヒント集】をもとに、文章構成図を作成させる。 ・はじめ・なか・おわりに分ける。 ・段落ごとに何が書かれているか小見出しをつける。 ・筆者の主張（一番伝えたかったところ）を見付ける。 ・「なか」に何がどのように書かれているかを考える。 →筆者は、自分の主張を伝えるために、「なか」で何をどのように述べているのかをまとめる。 ○段落相互の関係をつかませる活動では、グループ学びを行い、互いの考えを伝え合い、読み取りを深めさせる。 ○全体で「くらしをまもる車」の「なか」の例示は、3つの車が並べられていることを確認する。 ○説明的な文章の読み取りに必要なヒントが新たに出てきたら【説明文お宝ヒント集】につけ加える。
4 学習を振り返る。	○本時の学習を振り返らせ、分かったことを記述させる。

3 本時の評価

評価規準	「くらしをまもる車」に書かれていることを読み取り、ガイドブックにまとめることができている。【読む】 指示語や接続語が文や段落の関係を示す手がかりになることを理解することができている。【言語についての知識・理解・技能】		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	「くらしをまもる車」の文章構成を理解し、自分の言葉で小見出しや筆者の工夫を書いている。	「くらしをまもる車」の小見出しや筆者の工夫を書いている。	小見出しや筆者の工夫を書いていない。 →板書を基に、文章構成図を作成させる。
評価の方法	発言・ワークシート		

第4学年 実践事例 (3時目)

1 本時の目標

【説明文お宝ヒント集】を使って教材文「アップとルーズで伝える」を読み取ろうとすることができる。[関心・意欲・態度]

2 本時の展開(全9時間 本時3/9)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。	○前時に作成した「くらしをまもる車」の文章構成図を提示し、この構成図や【説明文お宝ヒント集】を基に、「アップとルーズで伝える」を読み取ることを伝える。
《めあて》 【説明文お宝ヒント集】を使って、「アップとルーズで伝える」を読み取ろう。	
2 「アップとルーズで伝える」を読み取る。 ①自分で読み取る。 ②グループで読み取る。	○【説明文お宝ヒント集】や「くらしをまもる車」の文章構成図を参考に、まずは自力で文章構成図にまとめさせる。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;">文章構成図にまとめる際に主にすること ・形式段落に分ける。 ・問いの文に線を引く。 ・キーワードに線を引く。 ・はじめ・なか・おわりに分ける。</div> ○文章構成図を作成しながら、【説明文お宝ヒント集】のヒントが「アップとルーズで伝える」にも当てはまるかどうかを検討する。当てはまるものは○、当てはまらないものは×、どちらかわからないものは△をつけさせる。 ○ヒントが当てはまるかどうかは、グループでも検討する。
3 学習を振り返る。	○本時の学習をふり返らせ、分かったことを記述させる。

3 本時の評価

評価規準	【説明文お宝ヒント集】を使って「アップとルーズで伝える」を読み取ろうとしている。【関心・意欲・態度】		
判断の基準	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	「アップとルーズで伝える」の文章構成を理解して、【説明文お宝ヒント集】のヒントが当てはまるかを検討し、○△×をつけている。	【説明文お宝ヒント集】のヒントが当てはまるかを検討し、○△×をつけている。	○△×をつけていない。 →友達の考えを参考に書く。
評価の方法	発言・ワークシート		

第4学年 実践事例 (4時目)

1 本時の目標

教材文「アップとルーズで伝える」の大まかな構成をつかむことができる。〔読む〕

2 本時の展開(全9時間 本時4/9)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。	○前時に作成した文章構成図を基に、本時では全体で検討することを伝える。
《めあて》 【説明文お宝ヒント集】を使って、「アップとルーズで伝える」を読み取ろう。	
2 「アップとルーズで伝える」の全体の文章構成をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○段落はじめの言葉にサイドラインを引かせ、前後の段落との関係を考える手掛かりとさせる。 ○「くらしをまもる車」でまとめたガイドブックをもとに、構成図にまとめさせる。 ○「はじめ・なか・おわり」の分け方については、意見が分かると予想されるので、ここでは、大まかな分け方にとどめておく。 ○児童の発言から、キーワードや問いの文にサイドラインを引かせる。 ○キーワードや内容から各段落に書かれていることを小見出しにまとめる。 ○【説明文お宝ヒント集】のヒントが当てはまるかどうかについては、全体で文章構成図を作成しながら当てはまるかどうかを確定していく。本時で解決できないヒントについては、次時以降に解決していくことを伝える。
4 学習を振り返る。	○本時の学習をふり返らせ、分かったことを記述させる。

3 本時の評価

評価規 準	大まかな全体の構成をつかむことができている。【読む】		
判断の 基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況の児童 への支援(C)
	【説明文お宝ヒント集】 や、キーワードや内容をも	【説明文お宝ヒント集】を 使って、はじめ・なか・お	はじめ・なか・おわりに分け たり、小見出しを書いたりす

	とに、はじめ・なか・おわりに分けたり、小見出しを書いたりしている。	わりに分けたり、小見出しを書いたりしている。	ることができない。 →友達の考えや板書を参考に書く。
評価の方法	発言・ワークシート		

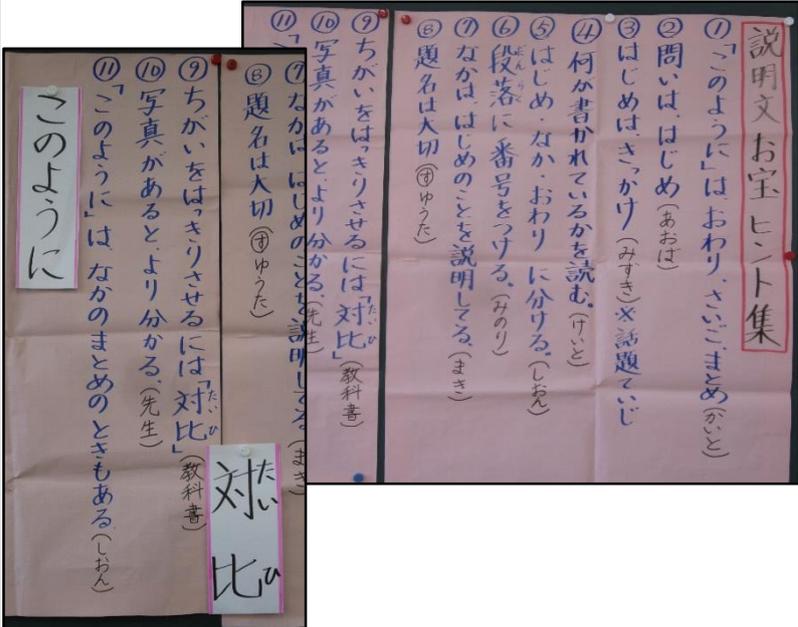
第4学年 実践事例 (5時目)

1 本時の目標

それぞれの段落の役割を確認しながら読み、対比関係をつかませる。

2 本時の展開(全9時間 本時5/9)

学 習 活 動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 前時までの学習を振り返る。	○前時までに出てきた疑問や解決できていないことをみんなで考えていくことを伝える。
2 本時のめあてをつかむ。	○ヒント集をもとに「アップとルーズで伝える」を詳しく読みとっていくことを伝える。
【説明文お宝ヒント集】を使って、筆者の書き方の工夫を見付よう。	
3 ⑥段落のはじめの1文がどこを指しているのかを考える。 ・「このように」がどこまでかかっているのか。	○アップとルーズで伝えられることと伝えられないことが④⑤段落に書かれていることから、「このように」が、④⑤段落にかかっていることを確認させる。
4 ④⑤段落の関係を読み取る。 ・アップとルーズの伝えられることと伝えられないこととは何か。それがどこに書かれているか。	○アップとルーズについてそれぞれ色を分けて囲ませる。 ○伝えられることと伝えられないことについて述べている文を表に表し、それぞれが反対になっていることに気付かせる。
5 ④⑤段落と同じ関係の段落を見付ける。 ・アップとルーズについて説明されているのは、文章だけか。	○書かれている内容から、①②段落が④⑤段落と同じ関係であることに気付かせる。 ○写真に着目させ、写真の様子を説明している文章を見付けさせる。ここから、写真がアップとルーズの説明を補う役目になっていることに気付かせる。
6 対比について知る。	○アップとルーズが「対比」という関係にあることを確認する。
7 「このように」の使い方を確認	○「くらしをまもる車」では、文章全体をまとめる役割の段落に「このように」が使われていたが、「アップとルーズで伝え

<p>認する。</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「このように」は、文章全体だけでなく、部分をまとめる役割もある。 ・アップとルーズが対比で述べられている。 </div>	<p>る」では、部分的にまとめる段落に使われていることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時で分かったことを自分の言葉で書かせる。 ○「対比」は、筆者の工夫の一つであることを確認する。 ○「くらしをまもる車」との構成を比較させ、構成が異なることを確認する。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>◇ 評価【読む】</p> <p>それぞれの段落の役割を確認しながら読み、対比関係をつかむことができる。</p> <p>[学習の様子の観察・ワークシート内容]</p> <p>Aの状況：「このように」の役割や対比関係をとらえ、自分の言葉で説明することができる。</p> <p>Bの状況：「このように」の役割や対比関係をとらえることができる。</p> <p>Cの状況と判断される場合の支援</p> <p>：アップとルーズについて書かれている段落を見付けさせ、書かれていることが互いに反するものであることを図式化して示す。</p> </div>
---	---

【児童の振り返りカード】

今日の学習で、強をつけて分かりやすい説明になると分かりました。

今日は④のたんらくと、⑤のたんらくのちがいをたいひということが分かりました。

今日は、ちがいを、見るのが対比と初めて知って、なるほどと思いました。対比をもっと、さがしたいです。

第4学年 実践事例 (6時目)

1 本時の目標

⑦⑧段落の役割を考え、複数の事例の大切さに気付くことができる。〔読む〕

2 本時の展開(全9時間 本時6/9)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。	○前時に学習した「対比」や「このように」の役割について確認し、本時は⑦⑧段落が必要ないのではと投げかける。
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> 《めあて》 筆者が⑦⑧段落を書いた理由を考えよう。 </div>	
2 ⑦⑧段落が必要かについて自分の考えをもつ。	○⑦⑧段落が必要か、必要でないかと、その理由をワークシートに書かせる。
3 ⑦⑧段落が必要かどうか話し合う。	○次のような観点で理由を書いている児童の考えを中心に発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・⑥段落までに書かれていることと、⑦段落に書かれていることの違いに着目している。 ・⑦段落、⑧段落に書かれている内容に着目している。 </div>
4 筆者が⑦⑧段落を書いた理由をまとめる。	○児童の考えから、⑦段落では、⑥段落までになかった新聞(写真)について述べられていることから、一つの事柄だけでなくもう一つの事柄を述べることで筆者の伝えたいことがより分かることに気付かせる。 ○⑧段落の「テレビでも新聞でも～」に着目させる。「テレビ」と「新聞(写真)」について述べられていることから、⑧段落は文章全体のまとめの役割があることを確認する。
5 学習を振り返る。	○本時の学習をふり返らせ、分かったことを記述させる。

3 本時の評価

評価規 準	⑦⑧段落の役割を考え、複数の事例の大切さに気付くことができる。【読む】
----------	-------------------------------------

判断の 基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況の児童 への支援(C)
	⑥段落までと⑦段落の書 かれている内容の違いに 気づき、⑦⑧段落の必要性 を書くことができる。	⑦⑧段落の必要性を書くこ とができる。	⑦⑧段落の必要性に気付く ことができない。 →⑦⑧段落の書き出しに書 かれている言葉に着目さ せる。
評価の 方法	発言・ワークシート		

【ワークシート 6時目】

⑤ <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>			⑦⑧段落は、() なぜなら、() ()と思います。	⑥ <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>
---	--	--	------------------------------------	---

筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう
 アップとルーズで伝える
 名前()

第4学年 実践事例 (7・8時目)

1 本時の目標

筆者の主張や工夫をつかみ、文章に書くことができている。〔読む〕

2 本時の展開(全9時間 本時7・8/9)

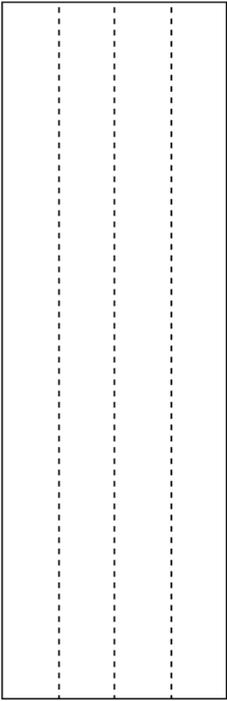
学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 前時の学習を振り返り、 本時のめあてを知る。	○【説明文お宝ヒント集】に書き加えてきたことを振り返り、本時 ではこれらの工夫を使って、筆者が伝えたかったことは何かを考 えていくことを伝える。
《めあて》 筆者が一番伝えたかったことを考えよう。	

3 「アップとルーズで伝える」で筆者が一番伝えなかったことを考える。	<p>○「アップ」で伝えなかったこと、「ルーズ」で伝えなかったことをそれぞれまとめさせる。</p> <p>○二つの伝えなかったことから、筆者が一番伝えたいことが述べられている段落や文を見つけさせる。</p> <p>○最後の段落に述べられている文章に込められた筆者の思いを考えさせる。</p>
4 筆者の工夫をガイドブックにまとめる。	<p>○これまでの学習で分かったことや、【説明文お宝ヒント集】に新たに加えたヒントをもとに、筆者が自分の主張を伝えるためにどのような工夫をしていたのかを文章にまとめさせる。</p> <p>○ガイドブックに載せる枠に限りがあることを提示し、文字数を制限する。</p> <p>○まとめを書く際に用いるべき言葉を見童から出させるようにする。</p>
<p>【予想される言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップとルーズ ・筆者(中谷さん) ・対比 ・写真 	<p>【まとめの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の中谷さんは、対比を使ってアップとルーズのちがいはっきりさせていた。 ・筆者の中谷さんは、対比をくり返して使い、アップとルーズのちがいはっきりさせていた。 ・筆者の中谷さんは、写真も使って説明することで、読む人にアップとルーズのそれぞれのよさを伝えなかった。
5 文章を互いに読み合う。	○書いた文章をお互いに読み合い、筆者の工夫が分かりやすくまとめられているかを確認する。
6 学習を振り返る。	○本時の学習をふり返らせ、分かったことを記述させる。

3 本時の評価

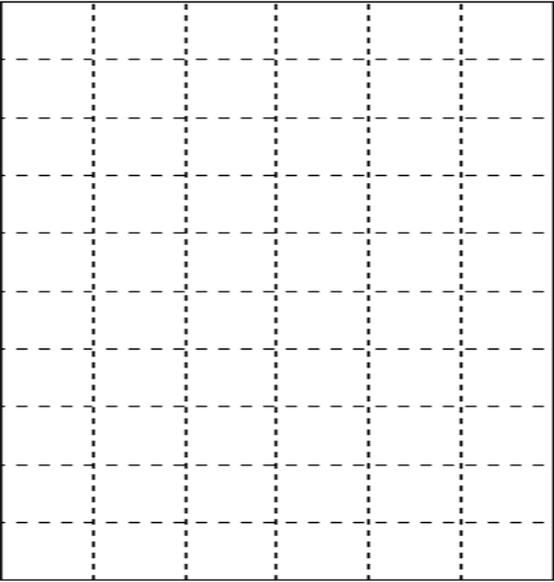
評価規準	筆者の主張を捉えることができている。【読む】 筆者の工夫をつかみ…読む 文章に書くことができている。…書く【読む・書く】		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の見童への支援(C)
	筆者の主張を正確に読み取り、60字以内で筆者の主張や工夫を書いている。	筆者の主張や工夫を60字以内で書いている。	筆者の主張や工夫を書いていない。 →筆者の主張が書かれている段落を【お宝ヒント集】に新たに付け加えたヒントから工夫を見つける。
評価の方法	発言・ワークシート		

【ワークシート 7時目】

	筆者の主張 (筆者が一番言いたかったこと)	新聞 (写真)	テレビ	ルーズ	アップ	

筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう
アップとルーズで伝える

【ワークシート 8時目】

	筆者の主張 (筆者が一番言いたかったこと)	新聞 (写真)	テレビ	ルーズ	アップ	

筆者の工夫を読み取り、ガイドブックにまとめよう
アップとルーズで伝える

第4学年 実践事例 (9時目)

1 本時の目標

学習を振り返り、身に付いた力について気付いている。【関心・意欲・態度】

2 本時の展開(全9時間 本時9/9)

学習活動	指導上の留意点(○)及び評価(◇)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。	○作成したガイドブックを見て、本時ではこれまでの学習を振り返り、この学習を通して学んだことを見つめる時間であることを伝える。
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> 《めあて》 学習をふり返ろう。 </div>	
2 学習の振り返りを書く。	○自分の学びを振り返ることができるように、書く時間を十分にとる。 ○振り返りのワークシートは、◎○△の3段階の自己評価をすると、自由記述の欄を設ける。
3 振り返りを読み合い、単元を通しての学んだことを全体で振り返る。	○単元全体を振り返り、自分の力で説明的な文章を読み取ることができるようになったかを自己評価させたり、説明的な文章を読み取るときに必要なことをまとめさせたりする。

3 本時の評価

評価規準	学習を振り返り、身に付いた力について気付いている。		
判断の基準	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況の児童への支援(C)
	説明的な文章の読み取りに必要な新たな観点に触れながら学んだことを書いている。	単元を通して学んだことを書いている。	学んだことを書くことができない。 →これまでの学習で書いた振り返りやワークシートを参考にする。
評価の方法	発言・ワークシート		

【ワークシート 振り返り】

◎ 読んだ文章の内容を振り返り、自分の力で読み取ることができたか。

○ 読んだ文章の内容を振り返り、自分の力で読み取ることができたか。

△ 読んだ文章の内容を振り返り、自分の力で読み取ることができたか。

イ 授業の考察

評価テストとその結果

大問1 説明的な文章「アップとルーズで伝える」の段落相互の役割を捉える

説明文テスト

名前 () 月 () 日 ()

一、説明文「アップとルーズで伝える」を読んで、
②～⑧段落それぞれの役割について、あてはまる
ものを次の から選び、書き入れましょう。

- ・ 全体のまとめ
- ・ 説明（アップについて）
- ・ 説明のまとめ（中のまとめ）
- ・ 説明（ルーズについて）
- ・ 写真（新聞）でのアップとルーズ
- ・ 問い

⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
						話題提示（きっかけ）	

資料1 評価テスト 大問1

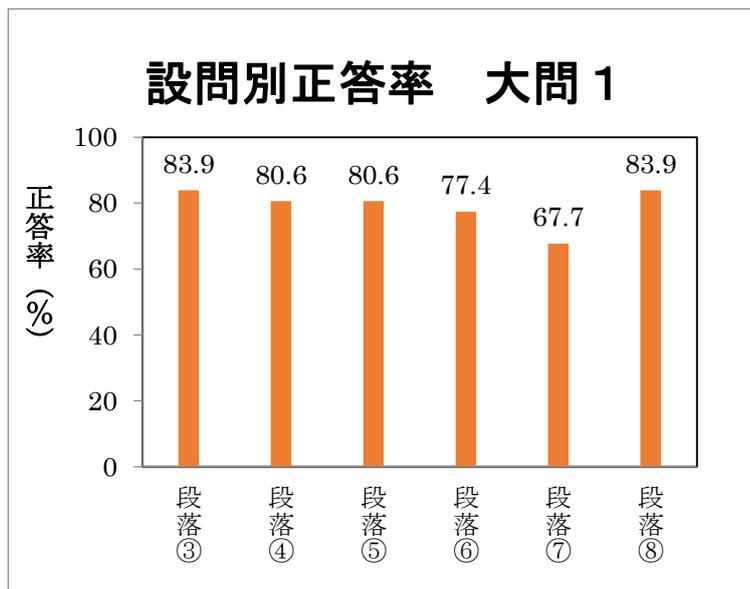


図1 評価テスト 大問1の正答率と考察

学習で取り組んだ説明的な文章の構成を問う設問です。

学習の中で、児童が最も悩んだ段落⑥・⑦の役割の正答率は、⑥77.4%、⑦67.7%でした。「全体のまとめ」以外にも、部分的なまとめがあることを本単元で学びました。しかし、部分的なまとめと全体のまとめの役割を区別できずいたり、⑦段落もまとめと捉えたりしている児童が数名いました。

全段落正答している児童は、61%で、4つの段落で正答している児童と合わせると80%という結果になりました。

大問 2

学習で学んだことを、初見の説明的な文章「くらしの中の和と洋」を読んで、活用することができる。

オ 写真を使って、より分かりやすくしている。	エ 対比を使って、ちがいはつきりさせている。	ウ 問いの文がある。	イ まとめの段落がある。	ア 「はじめ」「なか」「おわり」の三つに分けることができる。	【説明文お宝ヒント集】にあるヒント
					「くらしの中の和と洋」
/	/			/	段落

二、説明文「くらしの中の和と洋」を読んで、次の問いに答えましょう。

説明文「アップとルーズで伝える」は、【説明文お宝ヒント集】のヒントが当てはまるものと。当てはまらないものがありました。

① 説明文「くらしの中の和と洋」では、次の五つのヒントが当てはまるのでしょうか。次の図中にある「アップとルーズで伝える」を手本に、ヒントが当てはまるものには○、当てはまらないものには×を書き入れましょう。

② また、イ、ウは、どの段落に書いてあるでしょう。段落の番号を書きましょう。

資料 2 評価テスト 大問 2

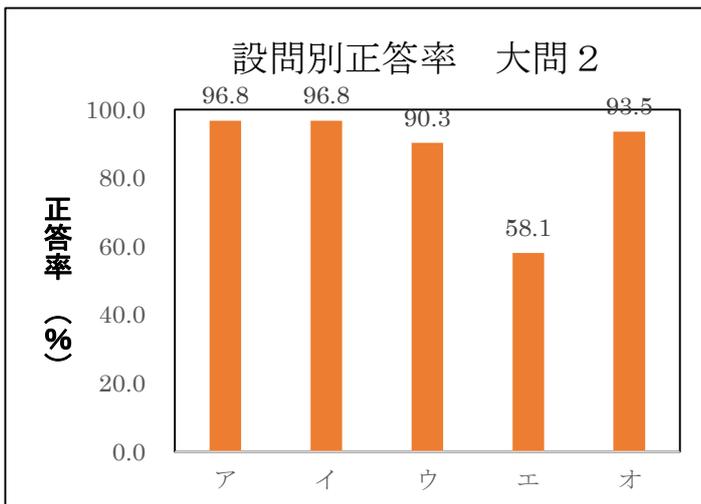


図 2 評価テスト 大問 2 の正答率と考察

学習で学んだことを、活用できるかどうかを問う設問です。

①は、段落相互の関係をつかむために、段落の役割が読めるか（イ、ウ）、全体の構成が捉えられるか（ア）、筆者の工夫が読み取れるか（エ、オ）の5つを問いました。初見の説明的な文章であったが、正答率が高いと言えるでしょう。

②のイ、ウの段落については、イの段落が87%、ウの段落が61%の正答率でした。大問1と同じく、「まとめ」の役割を捉えることが児童にとって難しいことなのだと分かりました。

② 振り返りのアンケート

あなたは、「アップとルーズで伝える」の学習を通して、以下のことは分かるように（できるように）なりましたか。自分のことをふりかえって答えましょう。
 ア 分かる（できる） イ 分からない（できない）

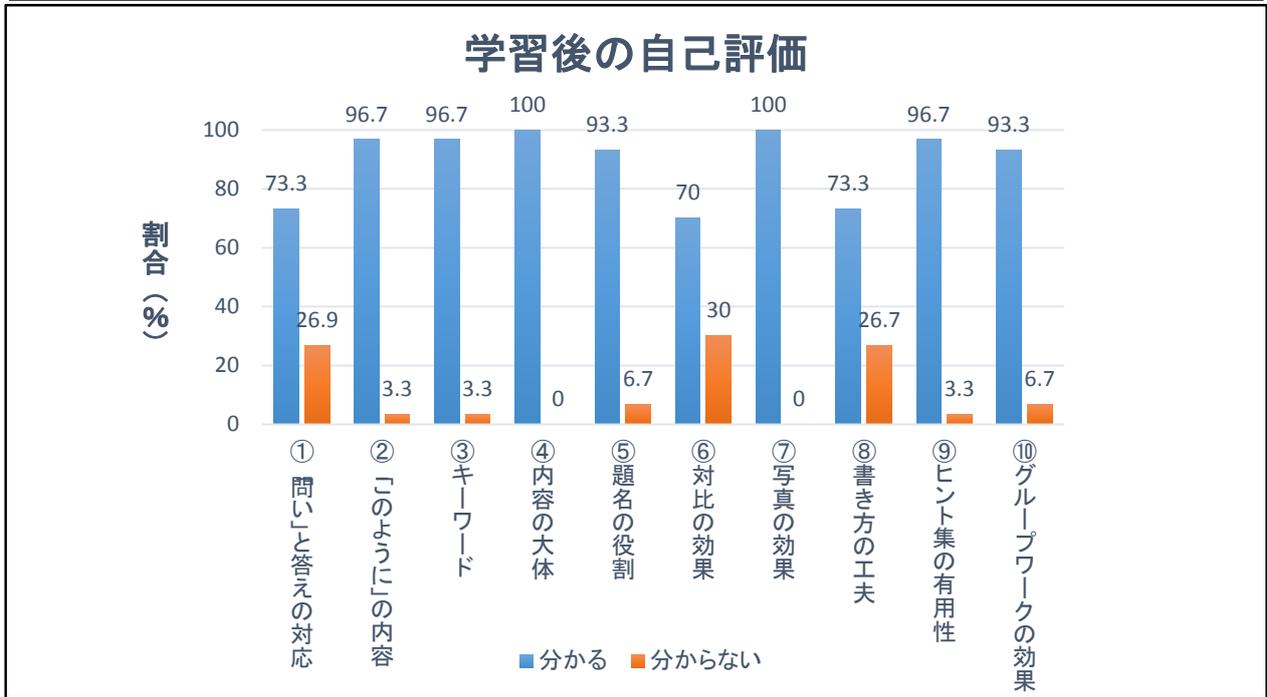
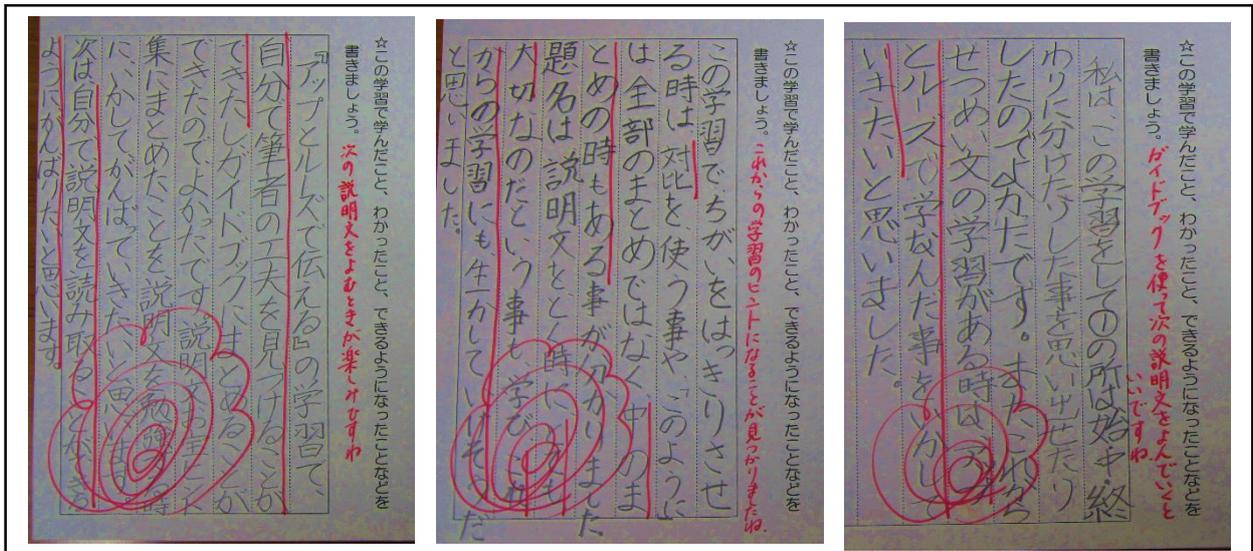


図3 学習後の自己評価

学習後の児童の自己評価を見ると、10の項目について、ほとんどの児童が「分かる(できる)」と自覚しています。今回の学習で作成し、活用した「説明文お宝ヒント集」について、96.7%の児童が、他の説明的な文章にも使えると答えています。単元終末時の記述による振り返りによると、この学習で自分の力になったことを、次の学習で生かしていきたいという内容の記述が多く見られました。「説明文お宝ヒント集」にまとめたことが、説明的な文章を読む自信につながったのだらうと思われる。



資料3 児童の振り返りの記述

ウ 成果と課題

実践校においては、学習状況調査等の結果から、以下のように課題を焦点化し、具体的な手立てを考え、授業実践に取り組みました。

○実践校における課題の焦点化

「中心となる語や段落相互の関係を捉えること」



○課題の解決に向けて必要な力

「説明的な文章の解釈に関して、段落相互の関係を捉えながら読む力」



○課題の解決に向けた具体的な手立て

- [手立て1] 低学年の説明的な文章を副教材として用いて、学び方を確認させる。
- [手立て2] 学習を通して得た新たな知識を「説明文お宝ヒント集」にまとめさせ、活用を図る。
- [手立て3] 単元を貫く言語活動として、ガイドブックづくりを位置付け、主体的な活動を促す。
- [手立て4] 児童が考えを広めたり深めたりする場として、一人学びとグループワークを設定する。
- [手立て5] 振り返りで、キーワードを使って「学習して分かったこと」をまとめさせ、「自分ができるようになったこと」を書かせることで、自分の学びを自覚させる。

【成果】

- [手立て1] 単元の導入で、低学年の説明的な文章を副教材として用いて、学び方を確認させたことは効果的でした。そこでの確認が、本教材の比較の対象となり、児童は常に2つの説明的な文章を比較しながら、学習を進めることができました。
- [手立て2] 「説明文お宝ヒント集」を作成しながら学習を進めていくことで、児童は説明的な文章の学び方を習得していきました。中心となる語を捉えることや文章の構成に着目することを繰り返し行うことができ、説明的な文章に対する苦手意識が少なくなり、学習に対する自信が付いたと思われます。
- [手立て5] 「学習を通して分かったこと」と「できるようになったこと」の視点で振り返りをさせたことで、児童は自分の力をメタ認知するようになりました。「これは、できるようになったよ」「次の学習でも使えるよ。」と自分のできるようになったことが具体的に自覚できたものと思われます。自信を付けた児童が増えました。

【課題】

- [手立て3] ガイドブック作成という言語活動は、児童にとっての必然性に欠けた活動だったようです。学習で理解したことをガイドブックにまとめるといった活動になってしまったため、単元の目標と言語活動の特徴が合っていなかったのかもしれない。
- [手立て4] グループワークの時間が十分に確保できませんでした。グループワークの時間はここでなければならないと決めずに、児童の様子を見て柔軟に対応することが大切だとわかりました。